

# 兵庫県美方郡周辺における クツワムシの分布に関する覚え書き

永幡 嘉之

クツワムシ *Mecopoda nipponensis* は大型の直翅類で、大きな鳴き声はよく知られている。私が育った播州平野の三木市には生息していなかったのか、姿にも声にも出会ったことがなく、長らく憧れの虫であった。初めて声を聞いたのは1991年8月20日、自転車で三木から鳥取へ向かった日のことであった。志戸坂峠を越える頃には日も暮れて、智頭・用瀬あたりを通過したのは夜中であったが、国道沿いの茂みから大きな音が聞こえた時には水を汲み上げるポンプの音かと思った。次々に聞こえるのでようやく虫であることに気づき、感動したものである。この声は、千代川沿いに下り、鳥取の市街地にさしかかる直前まであちこちで聞こえた。

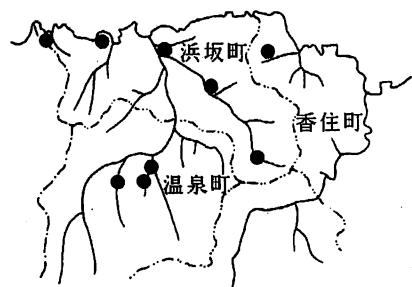
翌年の初秋に但馬でも出会い、嬉しさで湯村温泉まで何度も声を聞きに出かけた。ところが、浜坂町用土の岸田川河川敷などは一見よさそうに思える環境であるが、何度も通っても声を聞いたことがない。分布は不連続なようだ。そこで、これまでに声を聞いた場所を憶えている範囲で挙げてみた。

## <観察記録>

香住町余部西（鳴声：14-IX-1993）浜坂町藤尾（鳴声：21-VII-1993）浜坂町福富（鳴声：21-VII-1993）浜坂町居組（鳴声：21-VII-1993）浜坂町諸寄（鳴声1個体のみ：26-VII-1994）浜坂町諸寄～釜屋（♂多数確認・撮影：20-X-1993）温泉町湯（鳴声：23-VII-1992）温泉町湯中山（鳴声、1♂採集褐色型：23-VII-1991）（鳴声、1♂採集緑色型：28-VII-1992）（鳴声、1♂確認褐色型：29-VII-1992）温泉町飯野（鳴声1個体のみ：29-VII-1992）

これらの記録を分布図にしてみると、図1のようになる。産地は海岸に集中し、湯村温泉周辺のみが飛び離れた産地として孤立している。私の調査不足もあるだろうが、湯村温泉周辺では走行中の車内まで声が届くほど普通なのに対して、それ以外の地域では少ないとだけは事実だと思う。

クツワムシの分布に興味をもったのは、暖地性の昆虫であるから、温泉の地熱と越冬卵との間に何らかの関係があるのではないかと考えたためである。しかし、山本一幸氏によると浜坂町久斗山には生息しているとのこと



美方郡周辺におけるクツワムシの確認地点

で、寒冷な場所にも産地はあることになる。考えてみれば、熊谷や田君、奥諸寄も未調査であるし、8月下旬から9月にかけて夜間に行動した時間も限られる。また、信州に住むようになって、但馬と伊那とを往復しているときに、京都府舞鶴市や福井県小浜市・上中町各地のような東の方にも多いことを知った。但馬でも円山川流域には多いという話も聞く。そもそも成虫がどのような環境を好むのか、幼虫がどのような場所で何を食べて成長するのかなど、生態を全く知らない。ここでは問題提起にしかならなかったが、分布以外にも知りたいことがたくさんある。

いくら鳴く虫とはいえ、活動が夜間なので地元に住んでいないと調査がはかどらないが、9月上旬頃の夜間に何日かかけて但馬各地を回ってみたいものである。10月になると、夕方明るいうちからテンポの遅くなった弱々しい声が聞かれる。

直翅類のなかでもキリギリスやコオロギなどの、いわゆる“鳴く虫”は、体が柔らかいし、触角も折れやすいし、色も変わるし、よほどのことがない限り採集したことはないが、印象にはよく残る。おびただしいマツムシとスズムシの声に包まれる浜坂町用土の岸田川は好きな場所であるし、矢城ヶ鼻でユウスゲの花が咲く頃に大きな声を響かせるカヤキリなど、声と姿を一致させながら探して歩くのは楽しかったものである。手軽に美しい標本が作れるようになれば、いつか各種の分布を調べる気になるかもしれない。